大切な貴女へ　情報まとめ

出発前の情報（ホオヅキ）

ソース：看護士

ヘラが最近行方不明になっている

ソース：リリーナ

セレン医学研究所の医師と一緒に、流行病の治療でマレーンの田舎町へ向かったようだ。

ソース：看護士

流行病の詳細については不明。ヘラが出発してから既に二週間が経過している。街の名前はグラットンベリー。

ソース：クロードの知識

グラットンベリーはマレーンの西部にある田舎街。 歴史のある古い街で、宗教学が盛ん。聖地と呼ばれることもある。ぶどうが名産でワイン用の出荷も多い。マレーン崩壊後は、資金的な余裕から復興は遅く、難民も多い

ソース：ルノアの知識

はるか昔、聖女と呼ばれた女性が、信仰を広めるために滞在した街の一つらしい。そのせいか、神の声が聞こえる（冒険者でいうプリースト技能持ち）の割合が多い街らしい。ただいかんせん、信憑性はない。統計とってるわけでもないし そういういいつたえがあるよってだけだ。

カラドブルグ

ソース：軍部の武器売買担当髭オヤジ（チップ1セレン）

グラットンベリーは復興が遅れているので病気が多い。かなり人が死んだが、セレンからの医者が行ってひとまず落ち着いた。（ばつの悪い顔をしながら）
セレンからの医師は二人いて一人は美人だったらしい。もう一人は印象良くない。おっさんの反応的に(￣^￣)
病気は高熱が下がらなくて衰弱死するという症状。（ただし噂）
街は軍と神殿により立ち入り制限されていた。**（現在は封鎖解かれた）**
連絡は伝書鳩で送られてきた。
グラットンベリーは特に何もない田舎町で、赤龍に破壊される前は観光もあったようだ。

ソース：シーフギルド員（情報料100セレン）

セレンから入った医者は**有名な元冒険者の武闘派の医者だったらしい。弟子を連れていた。**
伝染病があったのは確かでたくさん人が死んだ。シーフギルドの人間は立ち入っていない。
伝染病の内容は高確率で感染して、高熱と呼吸困難で衰弱死する。（ただし噂）
それ以上の情報は状況が落ち着いて1週間もすればわかるだろう。
街は警戒態勢は敷いているが立ち入り制限はしていない。
街は本と羽ペンと楽器がないと暇すぎて死ねる。

ソース：教会の神官

ヘラの特徴に似た人は見かけていない。（人が多すぎて覚えきれない）
医者を名乗る人は来ていない。
神殿からは正式に人を出していない。**何人かが勝手に行ったが誰も帰ってきていない。**
グラットンベリーが封鎖になったという通知は軍から来た。
現地の神殿からの連絡は特にない。
今は封鎖も解かれているので（グラットンベリーに）行ってくれると助かる。気を付けることは特にない。

ソース：時計塔図書館の本

グラットンベリーの聖女についての本に家系図が見つかったが、神聖語で書かれており読めなかった。書写には時間がかかり過ぎ、図書館では魔法禁止なので情報の持ち出しはできなかった。

情報共有後の推論

印象良くない医者はヘラでは？
軍の情報とシーフギルドの情報の二人組は同一か？
聖職者が狙われているかもしれない。
伝染病が収まったなら現地からの報告がないのはおかしい。
伝染病は聖職者を狙った撒き餌？
ヘラが何かの家系だったかも？
食糧と水は現地のものを使わない方が良いかも。
流行病が終息したという情報は偽かもしれない。封鎖を解除させる策の可能性もある。

カラドブルグからグラットンベリーへの移動中イベント（ここでシエル合流）

（クロードの実家の馬車を使い、所要時間3日行程で、あと半日で到着というあたりで発生）
真夜中、月明かりが雲で隠れた時、前方から何かをずるずると引きずる音が聞こえた。距離約100m。
現れたのは**神官服を着たワイト**（レベル4）だった。引きずっていたのは下半身だけの死体。
水銀弾一発で破壊した。ワイトの死体は灰になって消えてしまった。
（現場検証）
引きずられていた死体は女性の裸の臍から下だけの下半身だった。肉片のついた背骨が突き出ている。
死体は鋭利なもので切断されている。痩せていてあまり健康そうではなかった。性的暴行の痕はない。
神官服の断片から宗派は分からないがグレートワンズ神殿のものだと分かった。
女性の死体に治療の跡はない。傷痕から獣の仕業ではなさそう。
女性の死体は埋葬して墓標代わりに太い枝を刺しておいた。

グラットンベリー

（描写）
荒廃した街ながらも建物は多く広い街だ。半壊して瓦礫になっているものが大半だが…。人は結構いるようで、テントや露店などは多く出ている。かつては聖堂だったであろう箇所も多く、瓦礫に布を渡して、神官らしき人が難民を勇気付けたり、演説してるのが散見される。 ほとんどグレートワンズの神官のようだ。そして メインストリートになる大通りで なにやらガヤガヤと人が集まってるのが遠目にも見える。
演説：『神を信じなサーイ そうすれば救われマース トゥーンだから平気デース(難民の肩に手を置いて)トムの勝ちデース(サムズアップ)』
クロードの馬車はメインストリート脇に路駐。**看板によるとマリアラインというらしい。**

街の人だかり

メイファが人だかりに近づくとイベント発生。
大柄な男に絡まれていた**ツバキを発見。**大柄な男は自滅して自警団に連れて行かれた。
ホオヅキの行方不明になった子を探していると言えば、ツバキには心当たりがあり、ちょっと今やばいらしい。
メイファはツバキの話を聞くために、ツバキと一緒に北の教会の方へと向かった。

北の教会

（描写）
中に入れば、具合の悪そうな人達が長椅子に座って項垂れていて、それをシスター達がせわしなく応対しています。 内装はヒビが入り、ステンドグラスは割れ、お世辞にも綺麗ではありませんが、神像だけは綺麗に掃除されています。具合の悪い人の数は多いが緊迫感はない。PTの知り合いはいないようだ。

ソース:シスター

伝染病は医師たちのお蔭で随分落ち着いた。最初は死者も多かった。**病気の原因は軍からの支給品の鶏（養鶏）が病気を持っていたから。**
医者は街に買い出しに出ているようだ。（ツバキのことか）
シエルがヘラとの会話を思い出す。**鳥を媒介に感染し高確率で死亡する病気は『鳥インフルエンザ』だろう。**
マレーンの医療水準では街一つ滅ぼすのに十分な病気だ。
教会の中にいると感染の恐れがあるので、あまり中に入らない方が良い。
アンデッドがいるという話は聞かないが、**通り魔が出るので夜は物騒。**ワイトが出ると言ったら驚いていた。
カラドブルグから来た神殿の人たちについて訊くと、
『いえ…昨日に**帰られましたよ**…こっちにいるのは**セレンから来たお二人だけです**。いや一昨日ですかね…とりあえず数日前です』嘘ではなく疲れてボケていたようだ。
PTが**カラドブルグからグラットンベリーに来る途中では特に誰ともすれ違っていない。**道は一つではないので本当に誰も戻っていないかは分からない。

街の様子

軍隊は撤退して、現在は自警団が街の治安を担当している。（伝染病の規模が比較的小さかったため？）
流行病が流行ったのは一ヶ月ほど前から。養鶏場が感染源。医者が来て助かった。医者は北の教会にいる。
医者のうち一人はてきぱきしてかっこいい。一人は少し不気味だけど親切。
ここ最近夜中に人殺しが発生している。自警団が追っているが掴まっていない。目撃者もいない。
バラバラ殺人のようだ。

自警団

大柄な男が暴れていて、四人の自警団員に関節技をかけられている。
自警団員はホオヅキの冒険者のことを探しているようだったが、その場にホオヅキの冒険者がいたことに気づかなかった。
自警団長は慌ててホオヅキの冒険者を探しに行ってしまった。
女医のことを聞くと北の教会にいると教えられた。関節技は彼女から習ったようだ。

教会

ツバキから、流行病の予防薬をゲットした。頑丈な冒険者たちなら飲めば予防できるだろう。（念のため飲んだと宣言した方がいいと思われる）
ツバキによるとヘラが流行病に罹患して重症で動かすことができない。あと四日もてば回復の見込みがありそう。
ヘラは人馴れしていないから心労がありそうなのが不安。**悪化したら三日で死んでしまう。**
ツバキによると**ここ最近妙な気配がある**という。ワイトの話をしたら、そちらにはあまり心当たりがなさそうだった。
この病気は神聖祈祷では治らないようだ。**一定深度までの進行が異常に早く、自己免疫力がつくまでは治してもすぐに再発する。**
普通は食事と投薬で治るが、栄養状態も衛生環境も悪いため、体力がないヘラが罹患した。

ヘラの治療

ツバキが持ち帰った材料で薬を作り、ヘラに飲ませると彼女とは思えない力で暴れたが5分くらいで収まって静かになった。なお、薬の分量を間違えるとショック死する。ここで調合した薬は「超神水」という名前で売られているらしい。これを三日続けなければならない。ヘラはうわごとのようにシエルの名前を呼んだ。
薬の材料については必要分は確保してあるようだ。
連絡に使った伝書鳩はファミリアのようなもので、ちょっとやそっとでは発病しない。
ヘラが最後の重症患者のようで、教会にいるのは別の病気を併発したり持病が悪化した人たちのようだ。

包帯男がマリアに差し入れ

ヘラに薬を飲ませてほっと一息ついたところでイベント発生。
身体中に包帯が巻かれていてトレンチコートを着て帽子を目深にかぶっている不気味な男がお見舞いで教会に入ってきた。
シスターたちは男が捜しているマリアという名前の患者はいないと言って追い返そうとしていた。
クロードはその男性には面識がなかった。（多分シスターたちも面識ない）
男「マリア…苦しんでないか…？いないのか…そうか……」男は、掠れた声でそう告げると、クロードに袋を渡して）
男「これ…マリアの好きなものだ……渡して…くれ……必ず、治るからなぁ…うめぇぞぉ…」男は、視線も合わせぬまま、どこか虚ろな印象を与える不気味さを持ち、そのまま背を向けて去っていった。（外に出て人ごみに紛れてしまった））
袋は薄汚れていて嫌な臭いがした。血の汚れと泥跡と砂埃。綺麗に使っていたという印象ではない」。
袋の**中身を確認すると半分腐った紫色のブドウだった。蟲もわいていた。**
クックマスター的にもこの状態のブドウには価値がないと思われる。普通なら嫌がらせでしかない。
敢えて言えば、貴重なビタミンとタンパク源。

紆余曲折の末、**半分腐りブドウはフリーズドライして魔法弁当箱に詰めた。**
事情はツバキに報告をして、**ヘラが目覚めたらツバキからヘラにブドウを渡してくれるとのこと**だった。ツバキは呆れていた。
ツバキもヘラが偽名だと気づいていたが騒ぐと断罪者を呼び込むからと敢えて偽名のままで通していたとのこと。

自警団長にメイファが呼び止められる

半分腐りブドウについての方針が固まったところでイベント発生。
メインストリートでメイファが大柄な男をのしているところを見た自警団員にホオヅキの冒険者だと思われたようで**自警団長が通り魔退治の仕事の依頼に来た。**
教会の一室で、仲間全員で自警団長から詳しい話を聞くことになった。